



6月1日から7日は、「HIV 検査普及週間」です

■エイズとは

HIV ウイルスは、免疫のしくみの中心であるヘルパーTリンパ球（CD4 細胞）という白血球などに感染します。そして、からだを病気から守っている免疫力を低下させていきます。HIVに感染すると、通常6～8週間経過して、血液中にHIV抗体が検出されます。感染から数週間以内にインフルエンザに似た症状が出るがありますが、この症状からはHIV感染をしているかどうかを確認することはできません。HIV検査を受けることではじめて感染の有無を確認することができるのです。HIV感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、病気とたたかう抵抗力（免疫）が低下し、本来なら自分の力で抑えることのできる病気（日和見感染症とよばれる）などを発症するようになってしまいます。このようにして、抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な23の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点でエイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬が出ており、きちんと服薬することでエイズ発症を予防することが可能になっています。

■感染はどのようにして起こるのか

大きく分けて3つの経路によって起こります。

性行為による感染

性行為による感染は最も多い感染経路です。HIVは主に血液や精液、膣分泌液に多く含まれています。HIVは感染者の血液・精液・膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を介してうつります。**性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV感染症／エイズ予防にとって有効な手段です。**

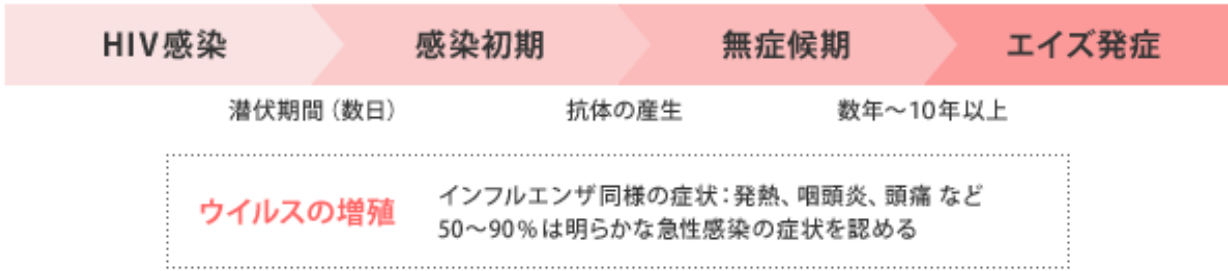
血液を介しての感染

HIVが存在する血液の輸血や、覚せい剤などの依存性薬物の“回し打ち”による注射器具の共用などによって感染します。日本では、現在、献血された血液は厳重な検査により最高水準の安全が確保されていますが、きわめてまれとはいえ、感染の可能性を完全には排除できません。なお、血液凝固因子製剤については加熱処理が行われているので、現在の血液製剤で感染する心配はありません。

母親から赤ちゃんへの母子感染

母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります。母乳による感染の例もあります。日本では、お母さんがHIV感染症の治療薬を飲むことや母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1%以下に抑えることができます。

<HIV感染からエイズ発症まで>



■エイズの動向

平成31年3月22日のエイズ動向委員会の発表によりますと、平成30年の新規HIV感染者・エイズ患者報告数は1288件で、2年連続減少しているものの、予断を許さない状況です。

一方で診断時に既にエイズを発症している割合は3割のまま推移しており、早期発見のための検査機会を逸していることによるものと考えられます。

山口県では、年間を通じて各地の保健所で無料・匿名のHIV抗体検査を実施しています。保健所でのHIV抗体検査は、無料・匿名で受けられます。検査を希望する場合は、原則、予約制ですので、事前に各保健所にご連絡ください。

■感染したかもしれないと思ったら…

検査を受けましょう！！

- 保健所では、**無料・匿名**で検査を受けることができます。検査を受けられる時間は保健所によって異なります。詳細は別紙の**エイズ検査実施機関一覧・HIV抗体検査日程**をご覧ください。
- 血液中に抗体ができるまでに6~8週間かかりますので、検査は、感染したと思われる日から**3カ月以後**に受けてください。

<HIV検査では?>



- 希望により、併せて**梅毒・クラミジアの抗体検査**を受けることができます。
- エイズに関する相談・問い合わせもできます。
- 病院やクリニックで受ける場合は原則有料です。また、名前や住所を知らせる必要があります。HIV検査を受けられるクリニックは、泌尿器科、産婦人科、性病科などです。検査受付については、費用や時間なども含めて事前に電話で確認してください。

